

世界に西陣織を売る

西陣産地復活プロジェクト

株式会社 細尾

代表取締役社長

細尾

真生さん



細尾 真生さん

平成23年度 採択事業

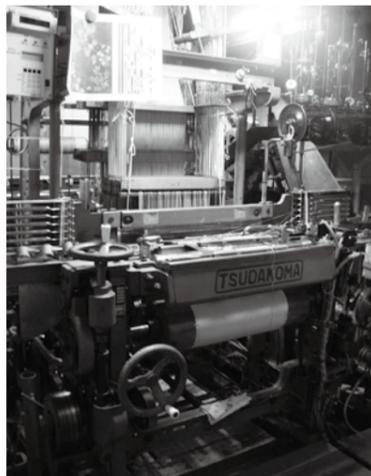
世界の西陣に

創業は元禄年間 1688 年。「西陣の織屋から始まりましたが、祖父母の代から問屋業に変わり、それ以降約 90 年間、問屋業をしています。1995 年からは、製造業も再び行うようになりました。」と、自社の長い歴史をさらりと語ってくださる代表取締役社長の細尾真生さん。生まれは西陣。西陣織の帯や着物を商いとる家庭に育った細尾さんは、大学卒業後、一旦商社に入りますが、そのうち 4 年をイタリアで勤められたそうです。その後、家業の (株) 細尾を継ぎ、5~6 年前から世界進出を意識した企業経営に力を入れてきました。「小さい頃からどこかに『世界の西陣にしたい』という想いを持っていました」と細尾さん。今まさに満を持して、世界に通用する西陣織の技術革新に取り組んでいらっしゃいます。

我が社にしかできない織物を

とはいえ、海外事業が波に乗るまでには様々な経験、失敗を乗り越えたと言います。まず初めは、パリのメゾン・エ・オブジェ見本市で発表された京都プレミアム (京都商工会議所) に西陣織を持ち込みます。しかし、日本の帯や着物の文化がそのまま海外のライフスタイルに受け入れられることは非常に稀であると、ハードルの高さを実感しました。その教訓を活かし、次は「使っただけのもの」とマーケティングの原点に立ち、欧米のインテリア文化で非常に大きいウェイトを持つクッションカバーを出品します。これは高く評価され、注文も頂いたそうですが、海外取引は経費がかかりすぎるという課題に直面しました。

それでも諦めず、海外進出のチャレンジは続きます。転機は、「むすぶ」のコンセプトで帯などを出展した「感性展」(経済産業省) のパリ・ニューヨーク巡回展。開催後、「作品の素晴らしさに感動した」と、ニューヨークの建築設計事務所から一通のメールが届いたのです。細尾さんは、すぐ



織り幅 70cm 従来の織機

鉦工業品の活用



新しく開発した織り幅 150cm の織機

にサンプルを持ってニューヨークに飛び、相手の要求する織物作りに誠心誠意をこめて対応したと振り返ります。様々なモチーフの写真や図が送られてきては、これを織物で表現してほしい、とのニューヨークからの依頼。しかも、出来上がった織物のお届け先は上海。疑問に思った細尾さんがその用途を聞くと、なんとそれは、有名ブランド店舗の壁布になるとのことでした。メールを送ってくださった建築設計事務所は、世界の有名ブランドの店舗やラグジュアリーホテルを手がける事務所だったので。その後、全世界の店舗内装のための発注が次々と続きました。

成功したかのように思える海外進出ですが、店舗の壁布にするための織物は広幅でなければなりません。西陣織の織機では、丸帯の織幅 70cm が限界なのです。細尾



平成 24 年 10 月 オープンのショールーム (上: 蔵からは織機の音が響く、下: 有名デザイナーのパリ・コレクション用出品作品に製織した生地)



さんは、ここでもチャレンジを続けます。「よし、織幅 150cm の織機を作ろう」。応援ファンドを活用して、わずか 1 年で 150cm の織機を完成させました。それからは飛躍的に受注が増え、織機も 3 台に増加。今も絶え間なく、インテリア、ファッションの世界へ西陣織が羽ばたいています。

「これが、我が社にしかできない織物、世界に 1 台しかない織機なんです」と、世界進出を目指して奔走し、ようやくたどり着いた細尾さんは誇らしげに語ります。

次世代への技術継承を

「世界の西陣に…」その想いはもちろん、業界全体へ馳せられています。昔から、数多くある工程全てが分業で成り立つ西陣業界。「受注が増えることで、職人さん 1 人ひとりの仕事が増える、地産の材料が使われる、織機作りの技術も継承される、その結果、次世代へ技術が継承されて行くことが一番大切なんです」と細尾さん。特に、次世代への技術継承は喫緊の課題であり、(株) 細尾では 10 年計画で若手技術者育成を進めているそうです。また、細尾さんの息子さんをはじめとした、伝統工芸と言われる世界の後継者たちが集まったクリエイティブユニット「GO ON」が結成されたことも力強い限りだと言われます。これからの事業展開に対する期待の眼差しは、既に少しずつ息子さんへ向けられているのかも知れません。



若い世代へ技術継承を

事業概要

株式会社 細尾

<http://www.hosoo.co.jp/>

代表: 細尾 真生

業種: 呉服製造卸売業

創業: 大正 12 (1923) 年 設立: 昭和 49 (1974) 年
住所: (本社) 〒604-8173 京都市中京区両替町三条上ル

TEL: 075-221-0028 FAX: 075-223-2507